

東京会場（東日本地区）テーマフォーラム

東京・名古屋・大阪の3会場でそれぞれにテーマを設定し、地区別「テーマフォーラム」を行った。東京地区のテーマフォーラムの開催内容は以下の通り。

- ◆モデレーター：町田誠（東日本地区担当実行副委員長）
- ◆テーマ：専門分野から見た、ウィズ＆ポスト・コロナ時代のイベントの可能性と実践手法の考察
- ◆実施内容

① 「スポーツ」

(発表者)

師岡文男 上智大学名誉教授、

ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会委員・事務局参与

桑田健秀 NPO 法人ピボットフット理事長

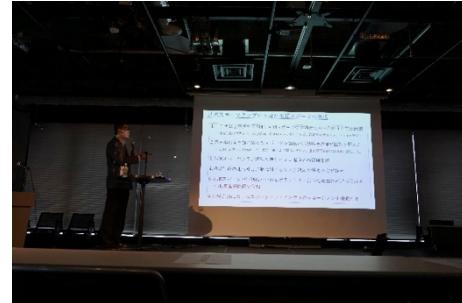
(表題)

メガスポーツイベント・地域スポーツイベントの論点で展望する With コロナ下の
スポーツ展開

(内 容)

生涯スポーツを支え、スポーツを通じた地域づくりを推進する上で総合型地域スポーツクラブをはじめとした地域組織、支援・後援団体が果たす役割が大きく、そのための組織と人材づくりを進め、地域全体でマネージメントしていく必要がある。

一方、大型の集客型のスポーツイベントは、コロナ禍の 2020 の試行的な運営から確実にこなすべき対策を実施して、社会全体の理解と協力の下に実践していくことが必要である。



② 「芸術文化」

(発表者)

守屋慎一郎 (株)ワコールアートセンター

(表 題)

With コロナの社会経済下でこそ議論すべき文化芸術がもたらす真の豊かさ実現のため
の方法論

(内 容)

コロナ禍で顕在化した本質的課題として、文化芸術の本来の豊かさを取り戻すことが必要である。

在るべき鑑賞環境を備えていない美術館等、芸術祭の乱立、文化芸術活動を支える体制の問題、都市政策・地域政策としての文化芸術の位置づけなど、多くの課題が存在している。低成長時代が続くこと、さらにウィズコロナの社会環境が見込まれる中にあっても、表現を通じた文化芸術のフィールドを展開していくための取り組みを進める必要がある。



③「MICE」

(発表者)

田中力 株式会社MICE研究所 研究員

田中弘一 株式会社コングレ執行役員国際営業部部長

原田 千亜紀 株式会社ヤプリオフラインマーケティング部 部長

(表題)

With コロナ時代の MICE の在り方、情報シェアと人と人がリアルに合う意味をイベントロジーとして議論

(内容)

企業グループ等によるミーティング、企業報奨・研修等のインセンティブ、学会・産業界・政府等によるコンベンション、展示会・博覧会等のエキジビション・イベント。

それぞれに、コロナ禍の中で、プラットフォームを活用したオンラインやバーチャルイベントへの移行、ハイブリッドでの開催などによりが試行されている現状にある。

オンラインやバーチャルで見えてきたそれぞれの課題、従来のリアルの開催とオンライン開催、またハイブリッド開催でのメリットとデメリットなどを整理して、通信や映像、課金のシステムなどのテクニカルな課題も改善しながら、MICE イノベーションを推進していく必要がある。



④「公園と国際園芸博覧会の可能性」

(発表者)

町田誠 国土交通省 PPP サポーター

(表題)

これからまちづくり空間としてオープンエアの特性がもたらす可能性と国際園芸博覧会 2026 横浜の展望

(内容)

公民連携の流れの中で、都市公共空間の活用が進められており、コロナ禍の中でもオープンエアの空間の資源性が活かされつつある。そもそも、密閉空間にならない空間特性と伝統的な日本の建築物の特性としての内部空間と外部空間の連続性なども活かしながら、公



園等の公共空間可能性を追求していく先に、2027年の横浜国際博覧会開催へのブレークスルーがあると考える。ウィズコロナだけでなく気候変動への対応も含めて、大屋根空間での国際博覧会の開催を模索したい。

⑤「地域活性化」

(発表者)

澤内隆 港区観光大使

池葉丈志 (株)ASP (テクニカル助手)

(表題)

リアルライブ・オンデマンド・バーチャルのハイブリッド画像とZOOMコミュニケーションで成立する新しい観光の視点

(内容)

グーグルアース・ストリートビューを活用し、あわせて、ZOOM利用のコミュニケーションをとることによって、日比谷公園のリアルタイムのバーチャル散歩を実演。グーグルアースを操作しながら日比谷公園を歩く池葉氏と会場内でトークする澤内氏のコミュニケーションによって、観光分野において、どれだけリアリティのある感動を届けることができるのか。2.5次元がカギとなるこれからイベントの在り方を考えるきっかけとなる。



⑥「放送と通信の融合」

(発表者)

武井克明 (株)パワープレイ

堀場勝広 ソフトバンク株式会社／山口有希子・Kia CHEUNG パナソニック株式会社

(表題)

最新の通信技術5Gがもたらすデジタル空間—インターネットクラウドにおける情報共有がもたらすシームレスな社会環境創造

(内容)

これまでの放送事業におけるロケーション撮影を伴う番組制作等が、5Gの通信技術とインターネットクラウドの活用により、革命的に効率化・経済化が図ることが可能となり、次世代放送のプラットフォーム (BaaS : Broadcast as a Service) を築くことができるなどを紹介。

インターネットクラウドを介した5Gのデジタル空間と撮影等に係る機材の技術サポートの協業により、情報共有の飛躍的な進歩を遂げることができることを、今回の研究大会の東京・名古屋・大阪会場そしてオンライン参加者を繋ぐ運営において実演した。



⑦「コロナ時代の新型イベント事情」

(発表者)

岡星竜美 目白大学メディア学部

(表題)

With コロナでも実現できるリアルイベントからバーチャルイベントまでジャンルもカテゴリも超えた新たなイベント定義の拡張

(内容)

3密を回避する「家族で・個移動で・屋外で・離れて実施する」ドライブインシアターなどのイベントから、ハイブリッドなイベント、完全オンラインイベント、完全バーチャルイベントまで、動員数においてはリアルイベントを凌ぐイベント開催が可能となっている。こうした拡張の中、「イベントとは何か」という本質的特性、「空間力」「即時力」「コンテンツ力」「演出力」「一体力」等の価値基準に照らして、非リアル空間・非リアルタイムで可能なイベントの在り方として、「空間」「メディア」「ジャンル」を越える「3越」のこれから新たなイベントを模索。

